天遊

大阪教育大学 広報誌

VOL.6 2006. AUTUMN

なにができる？

《特 集》

地域に貢献する

地域に貢献する

大学の存在意義が「教育」と「研究」にあることは、いうまでもありません。
しかし近年、大学に求められる第3の役割として、「地域貢献」がクローズアップされてきています。
大学の持つ施設や人材を活用して、地域の方々や地域の事業・産業の振興等に貢献するため、
各大学では、地元の自治体や産業界などとも連携を図りながら、様々な活動を行っています。
大阪教育大学では、学習機会を提供するため市民向けに多くの公開講座などを実施するほか、
地元柏原市や大阪府・大阪市教育委員会等とも連携し、
主に地域の教育や文化、産業の振興に貢献する活動を行っています。

森林体験学習

森林体験学習は、小学生が実際に森林に入り、そこでの植樹、間伐などの林業体験や草や木の自然観察といった体験活動を通して、自然に触れる感性、課題発見と問題解決能力を養い、自然環境についての理解を深め環境問題に対処して生活する力を育むことを目標に実施している、総合的な学習の時間を活用した学習プログラムです。

大阪教育大学では、柏原市からの協力要請を受け、「みどりの里山いきいきプロジェクト」を立ち上げ、大阪府中部農と緑の総合事務所、柏原市および森林ボランティアと連携しながら、この事業に参画しています。大学で登録された学生ボランティアが柏原市の小学生約１００名と一緒に高尾山創造の森へ入り、約10名ずつの小グループに分かれて、「森の宝探し」「春をみつけよう」「落ち葉のおふろ」等のプログラムを実施しています。

キッズ・ベンチャー

キッズ・ベンチャーは、柏原市、柏原市商工会、地域ボランティアとの連携により実施している体験型早期起業家教育で、小学校の児童が自分達で会社組織をつくり、自分達でつくった商品を販売し、その利益の使い道を自分達で考えるという総合的な学習の時間を活用したキャリア教育の一つです。大阪教育大学の教員、学生がサポーターとして柏原市内の小学校へ行き、

事業計画の策定や会社組織の設立、物作りから販売までのサポートを地域ボランティアの方々とともに行っています。

スタディ・アフター・スクール（柏原市放課後学習支援事業）

柏原市が平成17年に立ち上げた小学校放課後学習支援の新事業で、空き教室を利用した本学学生と地域ボランティアによる学級運営です。本学の学生が中心となって、柏原市内の小学校で、1年生から6年生までの異学年で構成される子どもたちの学習補助をしながら、子どもたちの学習習慣の定着、基礎学力を身につけることを目標とした活動を行っています。

科学教育支援事業「かがくをたのしもう」

地域の児童・生徒に実験をとおして化学の楽しさを知ってもらおうと、小学生（4・5・6年）とその保護者、中学生、高校生を対象に毎年夏休みに化学実験教室を開催しています。平成18年の開催では、小学生と保護者68組、中学生71人、高校生14人の参加があり、大学が用意したテーマからそれぞれが選んだ実験を本学教員、学生とともに行いました。化学離れ、理科離れに対応した、子ども達への自然科学への興味づけの機会となっています。

創業支援セミナー

大阪教育大学では平成13年から、南河内地域中小企業支援センター（大阪府商工会連合会）と連携し、創業を目指す一般の方を対象に創業支援セミナー「創業体験講座」を開催しています。セミナーでは、講師にSOHO代表者や中小企業診断士などを迎え、本学大学祭での出店を含め、6日間にわたる創業体験講座を行い、創業に向けた実際の事業計画作成やそのプレゼンテーション、講師との個別相談会などを実施しています。

商店街サマーフェスタ

大阪教育大学が位置する柏原市の商店街では、イベントを通じた地域の方々との交流促進により商店街活性化を図ろうとサマーフェスタを開催しています。大阪教育大学では、「若い力を借りたい」との要望を受け、多くの学生を派遣してイベントを実施しています。

平成18年のサマーフェスタは生憎の雨となりましたが、平成17年の第7回サマーフェスタでは、ステージでギター・マンドリンによる演奏やJAZZ演奏のほか、沖縄の民族衣装に身を包んだ約60名の学生がエイサーを踊りながら商店街の中を練り歩くなど、地元住民の方々から大きな喝采を受けました。

柏原市バーチャル産業団地

柏原市商工会では、市内の製造業社を主体とする約50社からなるWEBサイト「柏原市バーチャル産業団地」を開設・運営し、参加企業はホームページを通じた問い合わせや注文などに応じることで販路の拡大を図っています。大阪教育大学では、ホームページの外国語翻訳による海外との流通経路の拡大に向けた支援を実施するなどのサポートを行い、地域産業の活性化に貢献しています。

柏原市産学官交流セミナー

大阪教育大学では、柏原市、柏原市商工会との三者による「柏原市産学官交流セミナー」を平成14年度から開催しています。柏原市内の企業、本学教員、柏原市関係者が一同に会して交流を図ることで、産業界の持つ技術と大学の持つ知識の出会いの場となっています。企業との共同研究や企業からの受託研究などで地域産業の活性化につながることが期待されます。

大阪教育大学では、この他にも一般市民の方や小中学生を対象とした無料で参加できる講座や体験学習を多く開設しています。また、大阪府・柏原市と連携した食農教育推進事業や大阪府農林水産部と連携した環境教育推進事業、学校教員向けには大阪府・大阪市教育委員会と連携した一般教養研修、八尾市・柏原市・藤井寺市教育委員会と連携した科学実験・科学機器の研修なども実施しています。

これら地域との活動を通じて、地域の教育力の向上、地域をつくる人材の育成、地域の産業活性化などへさらに貢献していきたいと思っています。

言語獲得支援のあり方を求めて
～聴覚障害児とともに～

障害教育講座 助教授 井坂（いさか） 行男（ゆきお）

大学での教育相談（右端が井坂助教授）

障害を有する幼児児童生徒の教育は、平成19年度から、児童等一人一人の教育的ニーズに応じてより適切な教育的支援を行う「特別支援教育」へと転換が図られます。今、この教育のあり方、未来が大きく変わろうとしています。

私は、聴覚に障害を有する児童等が概念やことばを獲得する過程において、幾つかの課題を有する傾向があることを踏まえ、階層的な概念構造をもつ「生き物」という概念の獲得について、小1から高2までの11年間にわたる縦断研究を行いました。その結果、具体的な概念やことばの獲得との関連で抽象的な概念などが獲得しにくい傾向や、抽象的な思考が高等部段階で獲得される傾向なども認められました。現在は、より有効な教育的支援に関する示唆を得るために、次の研究にも取り組んでいます。

聾学校の授業分析による研究では、国語や算数の1単元分を対象にして、授業展開全体から児童の理解過程を検討しています。そこでは、児童の言語的な課題やつまずきの特徴が分かります。また、理解を促すための配慮や手話の役割についても考えています。

児童が知識を理解し獲得していく過程を分析するということは、複雑に関連する多様な要因を地道に解き明かしていく取り組みだと思います。この研究はゼミの所属学生と共同で進めており、対象となる児童の学ぶ姿に寄り添う力が求められます。

また、聴覚に障害を有する幼児が、実際のコミュニケーション場面で、どのようにことばや概念を獲得するのかについては、保護者支援も含めた大学での教育相談を通して、実践的に検討しています。幼児の興味関心を喚起しながら、場に応じた一つ一つのことばの獲得を促していくための関わりは、まさに、人間の言語獲得の原点に触れる思いがします。幼児が一つ一つのことばを獲得していくために支援する私達には、幼児と興味関心を共有し、幼児の周囲の状況を的確に物語れる力が求められます。保護者の方の情報から幼児の興味関心の本当の対象が理解されることもあります。保護者とその幼児のコミュニケーション場面の分析では、このような物語れる力を身に付けて、子供さんの言語獲得を促している保護者の方が多いことも認められました。

学生との授業分析の様子

これからの障害を有する児童等に対する教育的な支援は、社会全体がよりよい共生社会を目指す取り組みの中で、障害の有無に関わらず一人一人の児童等の「しあわせ」を追求していくためのものであると思います。私の研究も児童等の教育的な支援により貢献できるものにしていきたいと考えています。

男女の棲み分けはどうして起きる？

～心の性別ジェンダー～

人間行動学講座 講師 安達（あだち） 智子（ともこ）

「男の子が生まれた」、「私は女に生まれた」このような身体的・生物学的な事実が性別(sex)です。これに対して、心理的・社会的な性別のことをジェンダー(gender)と呼びます。ジェンダーは、男ならば沢山稼ぐべきだ、女は料理上手が望ましいといった、社会的な価値や期待を含む考え方で、この、ジェンダーにまつわる固定的な観念が、私たちの生き方や働き方に大きな影響を及ぼすといわれています。

たとえば、世の中には色々な職業があり、私達は、限りない選択肢を手にしています。しかし実際には、男の人は男性が多くを占める領域だけに、女の人は女性が主に活躍する領域だけに選択肢の幅を狭めて考えていることが少なくありません。このような職業選択における男女の棲み分けのことを水平的職域分離といいます。つまり、職業選択において男女同じように門戸が開かれていても、男性はいわゆる男性職へ、女性は女性職へと、それぞれのジェンダーに合致する方に集中する傾向がみられます。具体的な例をあげると、運転や操縦、建築、土木といった職種からは男らしいイメージを、保育、介護、事務、美容といった職種からは女性的なイメージを浮かべる人が多いと思います。前者がいわゆる男性職、後者が女性職で、私たちはいつの間にか職業について考えるときに男らしさ、女らしさによる垣根をつくっていることがあります。

このような職業選択における男女の棲み分けは、自己効力という概念をもちいて説明されています。人は何か行動をおこすときには「上手く出来るだろうか？」と、あらかじめ自分の能力を見積もることがあります。これが自己効力といわれるもので、英語で表現するならば「Can I do this?」となるでしょう。アメリカの心理学者ハケットとベッツは、男女大学生の職業に対する自己効力について調べています。そこでは、女子学生は女性職への自己効力は高いけれども男性職への自己効力が男性を下回るという結果が示されました。すなわち、女性は、実際の能力や資質とは関係なく、職業選択に性別という垣根をつくり、男性的な職業への自己効力が低いために、職業選択の幅を自ら狭めている可能性があるということです。

このように、自分の将来について決めるときに、人は実際に出来るか否かではなく、出来るか否かを主観的に自己評価して選択や行動につなげています。すなわち、女性である、男性であるという生物学的な性別によって生き方が決まるのではなく、それぞれの性に応じて自らの内に培ったジェンダーから影響を受けているのです。

現在の私達が暮らす日本社会に、20余年前にアメリカで行われたハケットとベッツの研究結果をそのままあてはめて考えることは出来ませんが、こうした心の性差であるジェンダーが人の行動や生き方、働き方にどのようにつながるかをテーマに研究をしています。

理科専攻専門科目 化学Ⅱ

～考えて結論を導く～

理科教育講座 助教授 西脇 永敏（にしわき ながとし）

化学Ⅱでは、有機化合物の名前の付け方に始まって、原子や分子の構造、物理的性質から簡単な有機合成に至るまで、広く浅くですが、有機化学の基本を教えています。高校までの化学は「暗記もの」というイメージがありますが、この授業を通じて、実際には「考えて結論を導く学問」であるということを少しでも理解してもらえればいいなと考えています。

この科目は理科専攻の講義の中で最も厳しいと言われています。「必修科目やのにそこまで厳しくせんでも」という声も聞こえてきますが、私はただきっちりと評価をしたいと思っているだけです。すなわち、一生懸命やっている学生にはいい成績をつけてあげたいし、そうでない学生にはそれなりの成績をつけることを心がけています。それをしないと、真面目にやっている学生までもがやる気をなくしてしまうからです。

講義は次のように進めています。最初の時間に、評価の基準や方法を説明して、その基準点に達しない人を不可にすると宣言します。毎週、講義の最後に問題を解いてもらい、その日の講義の内容の確認をさせます。これは小テストのように堅苦しいものではなく、学生同士の相談は自由です。これを5点満点で採点し、その日のうちに掲示板に、正解と一緒にタコ糸で吊るしておき、学生に自分の答案をちぎって持っていってもらうという方式を採っています。この小テストの合計点が15回分で75点、最後に行なう175点満点の本試験と合わせて250点満点のうち、100点以上であれば合格です。普通に受講していれば合格できるのですが、普通にしていない学生が少々多いということなのでしょうか。成績も完全にオープンにしていますので、不可になった学生から「自分は合格しているはずやのに」という苦情を受けたことは未だありません。

風船を使った分子の模型

学生に対して厳しく接するかわりに、私自身も努力をする必要があります。毎週100人分の小テストをきっちりと採点するのはもちろんのことですが、風船を使った分子の模型を使ったり、プリントを配布したりして、できるだけ理解してもらえるように努めています。その結果、化学を面白いと思う学生が一人でも増えてもらえれば、うれしい限りです。

インドヒマラヤを訪ねて

自然研究講座 教授 向井 康比己

コムギ畑で研究者との青空ゼミナール

平成18年2月から3月にかけて日本学術振興会の日印自然科学協力事業によりインドの大学を訪問し、共同研究や講演をする機会を得ました。インド北部におけるコムギの栽培では、多様な環境条件に対応した品種を必要としており、また大陸が陸続きであるので常に各種病虫害の影響を受けやすく、それによる収量の低下は深刻な問題です。本研究の目的は、持続可能な農業を目指して、インド側研究者が開発した新規ダブルハプロイド法と私たちが考案したFISH法という分子細胞遺伝学的手法を組み合わせて、多様な抵抗性をもつコムギ系統を迅速に育成するシステムを確立することです。

ニューデリーから大学のあるヒマチャルプラデッシュ州のパランプールまでは車で14時間ほどかかりました。パランプール市は、お茶の栽培で有名なところで標高1200m程ですが、背後には5～6000m級のインドヒマラヤ連峰がそびえており、訪問した時期は各種果樹の花が咲き乱れ、日本の5月頃の気候でした。一般的なインドのイメージとは全く異なり、まさに桃源郷のようなところです。滞在中、州内の大学や研究所を訪問し、研究者、学生、農民たちと交流を深めました。特に学生や農民たちの目の輝きは印象的であり、この国に明るい未来を感じました。

ヒマチャルプラデッシュ州ではヒンズー語と異なる言語が用いられ、それも谷ごとに方言があるそうです。しかし、大学では英語で書かれた教科書を使って、ヒンズー語または英語で授業をするそうです。英語で大学教育をしているのでインド人は英語に何の不自由も感じなくていいですねと言ったところ、日本のように自国語で書かれた教科書を使って高等教育ができるのは羨ましいと逆に言われました。また、ほとんどの人がベジタリアンであるので、すべて野菜とマメを使ったカレー味の料理で、小麦粉で作ったチャパティまたは粒の細長いインディカ米と共に食べます。たまに、ノンベジタリアンのためにマトンか鳥肉のカレー煮込み料理が出るだけです。

インドは中国と並ぶ、豊富な人的資源を持つ人口大国です。バイオテクノロジー分野のインド側の研究レベルが上がってきており、IT分野だけでなくバイオ分野に対しても国家をあげて重点的に取り組んでいる様子が伺えました。

今後、いろいろな分野でインドとの交流をもっと深めるべきだと思いました。

訪問大学のキャンパスから見たヒマラヤ連峰

ヒマチャルプラデッシュ州の家庭料理

大阪教育大学 附属平野中学校

歴史・地域・保護者に支えられ、教科学習と行事とにわたり、調和のとれた教育活動をしています。

附属平野中学校 副校長 吉野谷 成史

学校の位置する平野地区は、古くは平野郷と呼ばれ、摂津・河内・和泉の接境域であり、中世には堺とともに自治都市として繁栄していました。この歴史的・文化的な地に、本校は昭和22年大阪第一師範学校女子部附属中学校として設立されました。昭和25年には、大阪学芸大学大阪第一師範学校平野附属中学校となり、以後幾度かの改称を重ねて、本年で60周年を迎えました。来年の5月には、創立60周年記念式典を計画しています。この間、地域の方々に平野の中学校として親しまれてきました。現在、附属学校では日本で希有な災害時の地域の緊急避難場所として指定されてもいます。

本校は、民主的な社会形成者として、社会の発展に努めることができる人間の育成をめざし、教育活動に鋭意取り組んでいます。また、自省五問すなわち「真実であるか・公正であるか・個人の価値を尊重しているか・責任をわきまえているか・健康であるか」（第2代校長堀田由之助先生、昭和32年の創立10周年時の言が基）に示された精神を脈々と受け継ぎ今に至っています。

本校の生徒は、行事で成長するとよく言われます。特に「林間学舎（1年生）」「臨海学舎（2年生）」「修学旅行（3年生）」の三大行事が有名です。とりわけ、三泊四日の「臨海学舎」は、教師全員が参与する、学校あげての最大のものです。安全に配慮して医師も付き添います。学校のプールでの水泳訓練を行い、瀬戸内海（岡山県）を舞台に、海での水泳訓練の後に、1㎞遠泳と3㎞遠泳に挑むのです。最初は「とうてい遠泳なんて…」と思っていても、みんなと声を掛け合い隊列を組んで、助け合って泳ぐと、不思議に泳ぎきれるものなのです。この臨海学舎の経験で自然の偉大な力を感じるとともに、友だちのありがたさを身をもって知ります。この行事が継続している底力は、「助力」と呼ばれる本校卒業生の献身的な協力にあります。頼もしい助力たちは、全員が完泳できるようにサポートしてくれます。体育祭、文化祭、生徒会行事等、生徒は何事においても熱心に取り組みます。行事の為の行事ではなく、生徒そして教師の成長に資する行事がとても充実している学校です。行事で鍛えられた心身は教科学習に環流し、確かな学力を養成する基礎となっています。

教育活動を支援するＰＴＡ活動もまた盛んな学校です。実行委員会のもと各学年ＰＴＡや機能的な縦割りの委員会（教育環境整備委員会・広報委員会・文化委員会）が設けられています。文化祭にはＰＴＡ喫茶室を開店し、保護者・生徒の憩いの場を提供してもらいました。本校のさまざまな教育活動の意義をよく理解し、節度をもったサポートをあたたかくかつ力強くしていただいております。

歴史・地域・保護者に支えられ、教科学習と行事とにわたり、調和のとれた教育活動をしている学校です。是非訪れてみてください。

瀬戸内海での臨海学舎。遠泳の開始。

文化祭でのPTAによる喫茶室。

本当は明るいブラックホール!?

日本学術振興会特別研究員 渡會 兼也（わたらい けんや）

私は平成16年4月から現在まで理科教育講座の福江純教授の下で、日本学術振興会特別研究員として研究活動を行っています。私の主な研究テーマは「ブラックホールに落ち込むガスの物理状態を探る」ことです。

通常、宇宙の星や銀河を調べる際には、その天体からの光（電磁波）を観測しますが、ブラックホール（以下、BH）の場合、その強力な重力場の影響で光は出て来ることができず、観測は不可能です。しかし、BHの周辺にある電離ガスは、BHに引き寄せられる際に高温になり、大量の光（主にX線）を放射します。つまり、“ ブラックホール天体は明るく輝いている ”のです。BHの近くから出る光はBHの質量や回転、電荷などの情報を含んでいるので、この光が出てくる過程を調べることで、BHの性質を知ることができます。

数ある謎の中で現在我々が注目しているのは、中間質量BH問題です。今までBHには、太陽程度の質量を持つ“ 恒星質量BH ”と、太陽の100万倍から1億倍の質量を持つ“ 超巨大BH ”の2種類しかないと思われてきました。しかし、近年の観測からその中間の質量を持つBHの存在が示唆されています。我々の研究グループも含め、世界中のBH研究者がこの問題に取り組んでいますが、未だに十分な証拠が得られていません。まだ、この中間質量BHの存在自体疑問視する声も多いですが、もしこれが本当なら超巨大BHの成長・進化を解明する手がかりになるため、今後の展開が楽しみです。

私の研究はこんな浮世離れしたテーマですが、思いのほか皆さんが興味を持ってくれるのはうれしい限りです。謎を解決するだけでなく、科学や天文学の面白さを多くの人々に伝えていくのも研究者として重要な使命だと思っています。

2006年の8月　プラハで行われた国際会議にて。
冥王星を惑星のカテゴリーから外すことを議決した会議にも参加・投票しました。

地域連携学校教育のできる教員養成

平成18年度現代GPに採択

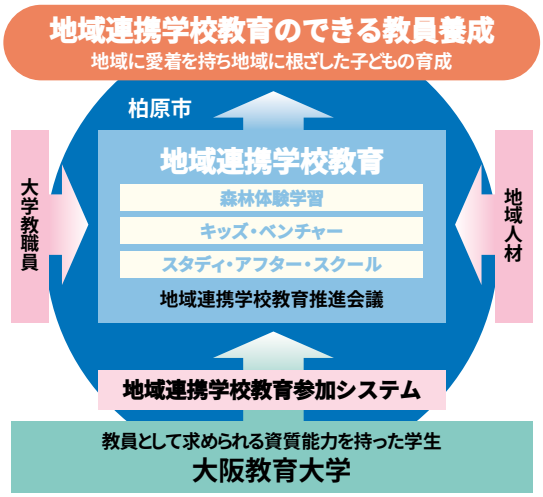
地域に愛着を持ち地域に根ざした子どもを育成できる教員養成プロジェクト

大阪教育大学は、これまでの地域との連携・貢献活動を高く評価され、文部科学省が選定する地域活性化への貢献（地元型）をテーマとする平成18年度現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）に採択されました。

このプロジェクトは、教育大学としての特性を活かして地域活性化に貢献しようとするもので、地域に愛着を持ち、地域に根ざした子どもを育成することのできる人材育成をめざし、大学教員、学生及び地域住民の協働による地域連携学校教育プログラムを通じて、地域づくりリーダーとしての役割をも担い得る教員を養成するプログラムです。

特集で紹介した「森林体験学習」「キッズ・ベンチャー」「スタディ・アフター・スクール」の活動を通じて、森林活用、商店街活性化及び地域の教育力向上の面で地域活性化を図るとともに、学校教員をめざす学生がこれらの活動に参加することにより、新たな時代に求められる教職キャリアの養成に資することをめざしています。

柏原市活性化への貢献



天遊 VOL.6
2006年10月発行　企画・編集・発行／国立大学法人大阪教育大学企画課　ホームページ／http://www.osaka-kyoiku.ac.jp/

■平成19年度入試日程（平成19年4月入学）

区分			出願期間	入試日	合格発表日
教育学部第一部	センター試験を課さない推薦		11/1～11/8	11/18・19	12/1
	センター試験を課す推薦		12/18～12/22	1/23・24	2/13
	私費外国人留学生		12/22～27	1/23	2/13
	一般	前期	1/29～2/6	2/25・26	3/7
		後期		3/12	3/23
教育学部第二部	小学校5年課程	前期		2/25	3/7
		後期		3/12	3/23
	小学校5年課程3年次編入学		1/5～1/11	2/17・18	2/22
特殊教育特別専攻科※	言語障害教育専攻※		1/5～1/11	2/3	2/22

※平成19年4月から特別支援教育特別専攻科 特別支援教育専攻に名称変更します。
入試日程に関するお問い合わせは　TEL.072-978-3324までお願いします。

■進学相談会のお知らせ

対象者	とき	ところ
受験希望者・高等学校2年生等	11/3	大阪教育大学 柏原キャンパス
第二部3年次編入学希望者	11/3	大阪教育大学 天王寺キャンパス

進学相談会に関するお問い合わせは　TEL.072-978-3324（柏原キャンパス）または、TEL.06-6775-6605（天王寺キャンパス）までお願いします。

■現職教員や社会人をはじめ広く一般の方々に学習機会を提供するため下記の制度を設けています。

区分		出願期間	備考
科目等履修生	教育学部	3月上旬頃	出願要項は1月上旬頃配布（予定）
	大学院教育学研究科	3月上旬頃	

科目等履修生とは、学部又は大学院の正規の授業を履修し、試験に合格すれば単位を取得できる制度です。
各種免許・資格の取得や特定のテーマについて専門的に学びたい方などが受講されています。
科目等履修生に関するお問い合わせは　TEL.072-978-3297までお願いします。

区分		出願期間		備考
研究生	教育学部	前期又は1年間	2/5～2/9	出願要項配布中
	大学院教育学研究科	後期	8/27～8/31	
	教育学部（外国人留学生）	前期又は1年間	11/6～11/10	
	大学院教育学研究科（外国人留学生）	後期	5/14～5/18	

研究生とは、学部又は大学院を卒業・修了された方が、指導教員のもとで、特定の研究テーマに対して指導を受ける制度です。
研究生に関するお問い合わせは　TEL.072-978-3297までお願いします。

情報処理センターがTOEFL iBTの試験会場に

2005年9月からインターネット版TOEFLテスト、TOEFL iBTが導入され、日本では2006年7月から試験が開始されています。

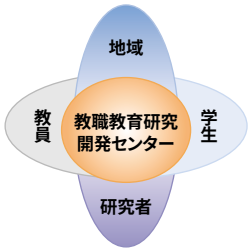
大阪教育大学は2006年10月から、情報処理センターがTOEFL iBTの試験会場となりました。

教職教育研究開発センターが発足

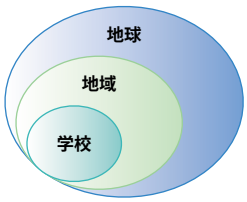
力のある教員の育成と現職教員の資質の向上が今日あらためて求められています。

2006年4月、既存の教育実践総合センターと生涯学習教育研究センターを発展的に統合し、「教職教育研究開発センター」が新たに発足しました。

本センターは教職教育および地域教育を担う総合的な研究開発センターとして、教育現場のあらゆる課題の解決を追求していきます。



地域・教員・学生・研究者をつなぐ
コーディネートのためのセンター



学校―地域―世界を結ぶ
グローカルなセンター

本誌にご意見をお寄せください

本誌『天遊』は今後の誌面づくりに皆様のご意見を積極的に取り入れていきたいと考えています。ご感想やご意見、大阪教育大学についてお知りになりたいことなどをお聞かせください。

●宛先　〒582-8582　大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1
国立大学法人大阪教育大学企画課
TEL.072-978-3344　FAX.072-978-3225
E-mail　kikaku@bur.osaka-kyoiku.ac.jp
ホームページ　http://www.osaka-kyoiku.ac.jp/

『天遊』とは

「天遊」は、荘子の言葉から引用されたもので、人間の心の中に自然に備わっている余裕をあらわしています。キャンパス統合移転の記念に旧師範学校以来の同窓会3団体から寄贈された記念碑に銘文として刻まれています。

古紙配合率100%の再生紙を使用しています。
PRINTED WITH SOY INK
アロマフリー型大豆油インキを使用しています。

この印刷物は、10,000部を766,500円で、すなわち1部76.7円で作成しました。